

# 共に生きる

「うわあ、怖い。」

「真っ暗。」

「絶対そばを離れないでね。」

目に障害を持つかたをお招きして、アイマスクを付け、白杖を持った子どもから思わず出た言葉です。

アイマスクを付けると全く感じが違います。不安を感じます。集会室を出て階段を降り、水道で手を洗い、また集会室に戻って来る体験をします。「ああ、怖かった。」「戻って来れてよかった。」「何とか集会室に着いてほっと一息。アイマスク体験で目に障害を持つかたがたがどんな世界に生きておられるのが少し分かったようです。」

「ぼくたちと同じだ。」

お招きしたかたに普段の生活をおたずねします。

「昨日の朝は主人のお弁当を作ってお洗濯をして、昼からは民謡の教室へ行って、夜はマツサージのお仕事をして...」聞く度に「へえ」と驚きの声があちこちから聞こえてきます。自分たちと何も変わらない生活をしていらつしやるのが分かったからです。親近感が増し、心の壁が取れる思いがします。話を聞いているうちに常に前向きに、障害を乗り越えて生きていらつしやる人生の先輩の話に聞き入っていました。

## 頑張って作った点字絵本

点字を探る指先をじっと見つめる子どもたち。不安と期待が入り交じります。

「分かりますよ。『わたしは』と打ってあるんですよ。」「聞いた途端、ほっとした表情。『ああ、よかった。』自分たちでできることは何かを考え、一人ひとりで作った点字絵本です。初めての経験で打つ場所を確かめながら点字を打ちました。点字を

打つには根気がいります。途中で止めたくなくなってしまったことも何度かありました。「よく打ててありますよ」とお褒めの言葉をいただいた、自信が持てた子どもたちです。

下羽栗小学校の四年生は、総合的な学習の中で年間のテーマとして『福祉』を取りあげ学習しています。だれもが共に生きていくために、自分たちでできることは何だろうかということを探りながら、障害を持つかたとのふれあう会を中心に学んでいます。車いすのバスケットチームや高齢者とのふれあう会も計画しています。単なる知識理解に留めず、いろいろな体験を通して心に響く学習をしています。

最後に、こうした学習ができるのは、笠松町社会福祉協議会がコーディネートしてくださっているおかげです。感謝申し上げます。

下羽栗小学校

四年生担任 高野 説子

教育委員会  
だより

## 輝かしい新学期

新しいスタート。どんな仲間や生活が待っているのかとわくわくしたり、不安になったりする時期です。スタートだけで1年間が決まるわけではありませんが、できるだけいいスタートを切らせてあげたいものです。そのためには、**新しい生活に夢や希望を持たせる**友達がいっぱいできることや楽しい学習ができることや今までなかった活動が始まることなど、新しい生活に夢が持てるような話をしながら、学校の準備ができるといいですね。「新学期になったら学校のことをたくさん話してね」などと頼んでおくこともいいでしょう。

「どんな生活が始まるか」**見通しをもたせる**

特に、新入学生の子は不安が大きいものです。小学校や中学校でどのような生活が待っているのかを知り、心配することなどないこと、何かあったら先生方に相談すればよいこと、近所の友達も同じように通うこと...など、安心できるような話をしていただ

けるといいですね。**自分の可能性を広げること、仲間と関わり合っ**て生活していくことの大**切さを語る(なぜ学ぶのか)**

学校ではいろいろな活動の中で、「道徳性・学力・社会性など」を高め伸ばすことを大切にしています。学校で学ぶことが将来の自分や家庭を支える基盤になること。学んだことを生かして、社会に貢献できる人になってほしいこと。などを子どもに分かる形で語っていただくことが重要です。**自分の「課題」を明らかにさせる**

進級する者にとって不安はそれほどないかもしれませんが、新学期を「自分を変えるチャンス」にしてほしいものです。今までの自分を振り返り、課題や目標をしっかりとらせてあげてください。

以上のことが大切だと思います。どの子にとっても「輝かしい新学期」になるよう働きかけ方を考えてみましょう。



笠松町道徳教育連絡会議